

平成 28 年 11 月 2 日

岐阜信用金庫
理事長 住田裕綱

「知財ビジネス評価書」を活用した事業性評価融資の取組みについて

「知財ビジネス評価書」に基づいた「事業性評価」
による融資を実行した岐阜県で初めての事例

岐阜信用金庫（理事長 住田裕綱）は、岐阜プラスチック工業株式会社（岐阜市：大松利幸 社長）に対し、「知財ビジネス評価書（平成 28 年度知財金融促進事業 伴走型支援）」に基づいた「事業性評価」による融資を実行しました。なお、同取組みは、岐阜県において初めての融資事例です。

岐阜プラスチック工業株式会社は、物流産業資材、工業部品、医療関連品、TECCELL（テクセル／世界初の熱可塑性樹脂による連続成形技術を使用したハニカムコア材）の製造販売におけるトップメーカーとして業界をリードしており、当金庫は「知財ビジネス評価書」により当社事業の優位性や将来性などを見極め、融資判断材料の一つにしました。

当金庫は、お取引先企業の知的財産の活用を含めたコンサルティング機能を一層発揮することで、「事業性評価」に基づく新たな資金需要の掘り起しに取組み、地域経済の発展に貢献していきます。

取組み企業の概要

企業名	岐阜プラスチック工業株式会社
事業内容	プラスチック製品製造
所在地	岐阜市神田町 9 丁目 27 番地
資本金	2 億 1100 万円
設立	昭和 28 年 4 月
売上高	272 億円（連結 835 億円）
従業員数	717 人（連結 2,242 人）



出所：岐阜プラスチック工業株式会社

企業概要	<p>折り畳みプラスチックコンテナ、プラスチックパレットにおける業界大手であり、近年は、食品包装容器の売上がグループ全体で 5 割を占めます。</p> <p>2006 年には、ダンボールと同等の薄さで再生可能性、透明性を持つ包装資材「リソボックス」を商品化し、2009 年には、熱可塑性樹脂のハニカムコア材 TECCELL の量産化を世界で初めて成功させています。同素材は、自動車の内装部品、建築土木資材、スポーツ資材で採用されつつあり、あらゆる産業の省エネルギーに貢献するものと期待され、これらに関する特許出願戦略、意匠権、商標権の実績を評価され、平成 27 年度知財功労賞を受賞。その他、第 6 回ものづくり日本大賞「経済産業大臣賞」、第 34 回プラスチック日用品優秀製品コンクール「経済産業大臣賞」等、多数の受賞を受けている企業です。</p>
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

知財金融促進事業（知的財産評価書事業）伴走型支援とは

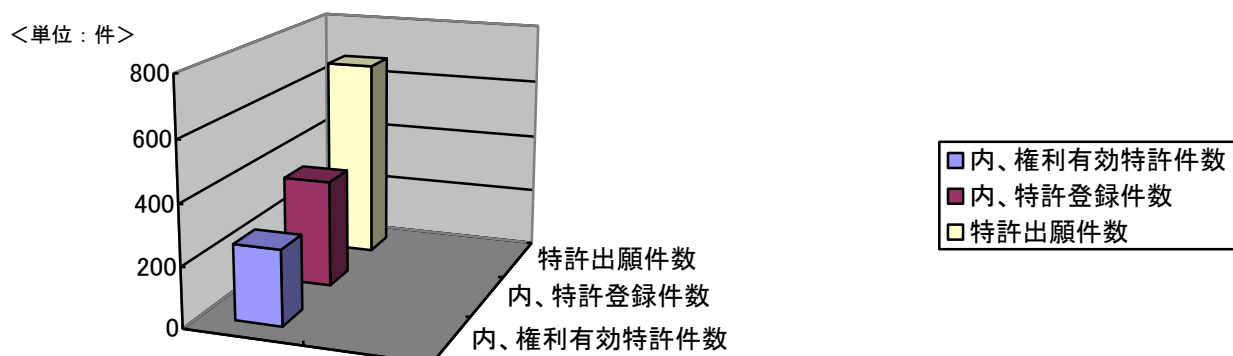
金融機関による「金融機関内における知財金融の普及・促進」を目的に特許庁が実施する支援事業。平成 28 年度、岐阜信用金庫は同事業の公募採択を受けて、「知財ビジネス評価書」の内容等を参考に取引先企業の本業支援に組織的に取り組んでいます。また、中部経済産業局と連携して事業性評価に基づいた融資の成功事例の積み上げを目指し、当地域における「知財金融」の普及・促進に取り組んでいます。

<知財ビジネス評価書とは>

企業が有する知的財産権を主軸とし、市場優位性・競争優位性といった事業全体のきめ細かな定性評価等を盛り込んだ評価書。

岐阜プラスチック工業株式会社の知財戦略について

岐阜プラスチック工業株式会社 特許の出願・登録動向（1995 年以降） 出所：(株)三菱総合研究所作成「知財ビジネス評価書」



当社は、独自素材を提案できる技術力に加え、環境への配慮意識が非常に高く、従来の石油由来のプラスチックパレットに CO2 排出抑制効果のある植物由来のバイオマスプラスチックを混入したパレットなど、エコ製品やリサイクル製品を多く開発しています。当社は国内・海外に積極的に特許の出願を行っているほか、充実した先行技術調査とオリジナルの知財マップ活用により製品の開発スピードを向上する社内体制を構築しています。こうした優れた「知財」の活用は、当社の技術力と相俟って、今後の事業成長を強力に下支しています。

岐阜信用金庫の知財金融に対する取組み

中部地区は、自動車産業や航空機産業など製造業が集積し、優れた技術を持つ企業が多く、特に企業の特許に関する関心が高い地域です。このような背景から、当金庫は平成 27 年度より「事業性評価」の体制整備の一環として、「知財金融」の取組みに着手。平成 28 年 2 月には、財務諸表に表れない技術力・技術資産の実態把握を行うことを目的として、成長分野に取り組む企業向け既存融資ファンドにおいて、(株)三菱総合研究所の「企業特許レポート」を活用した知財評価融資（信用金庫で初めての取組み）の取組みを開始しました。さらに平成 28 年 11 月には中部経済産業局等との共催による知財金融の企画として、「知的財産ビジネス討論会 in 春日井」を開催予定であり、岐阜プラスチック工業株式会社開発部知財統括部の担当部長を交えた公開討論会も行います。

「知財金融」とは、取引先企業とのリレーションをいっそう強固にする「事業性評価」の取組みそのものです。当金庫は取引先企業とともに将来像を語るパートナーを目指します。

以上